

大阪市立総合医療センター 広報誌

和

76
2026

Osaka City General Hospital

消化器外科は新たなメンバーで、質の高い医療の提供に努め、地域の皆さまに信頼される医療を実践してまいります。

- 新病院長ご挨拶
- 新副院長ご挨拶
- 新診療部長紹介
- がん患者さんへ必要な支援を届けるために
- 腎臓よもやま話～腎不全と金魚の水槽～2
- 連携登録医のご紹介

新病院長ご挨拶

大阪市立総合医療センター
病院長 清水 貞利

このたび、大阪市立総合医療センター病院長に就任いたしました清水貞利です。

大阪市立総合医療センターは、1,000床を超える病床と多くの診療科を有する大阪市の中核病院として、高度で専門的な医療を提供するとともに、地域の医療機関と連携しながら、市民の皆さまの健康と安心を支える役割を担っています。

当院の大きな特徴は、各診療科が高い専門性を持ちながら密接に連携し、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供していることです。

内科系診療科では、日常的な疾患から難治性疾患、希少疾患まで幅広く対応し、先進的な医療や臨床研究にも積極的に取り組んでいます。

がん医療においては、手術、薬物療法、放射線治療を組み合わせた総合的ながん治療を実践しています。近年大きく進歩しているがん薬物療法や高精度放射線治療を提供するとともに、患者さんやご家族の心身の負担を和らげる緩和ケアにも力を注いでいます。また、小児がん診療やがんゲノム医療にも対応し、専門性の高い医療体制を整えています。

外科領域では、患者さんの身体への負担が少ない低侵襲手術を積極的に導入しています。なかでもロボット支援手術は、より精密な操作が可能で、治療成績の向上や早期回復につながることを期待されています。

当院では婦人科、泌尿器科、消化器外科をはじめ幅広い分野で実施しており、2025年には新たな手術支援ロボットを導入するなど、最新医療の充実を図っています。

周産期医療では、総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や重症新生児に対する高度医療を提供しています。



また、小児医療センターでは15の診療科が連携し、高度かつ専門的な小児医療を実践しています。

さらに、思春期から若年成人世代の患者さんが安心して療養できる環境づくりにも取り組んでいます。

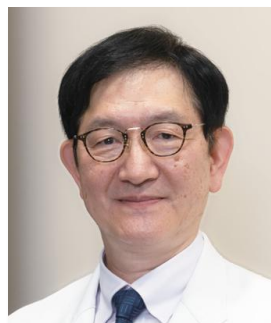
救急医療においては、大阪市内の三次救急医療機関として24時間体制で重症患者さんを受け入れています。また、小児救命救急や感染症医療、精神科医療、災害医療など、公立病院として求められるさまざまな医療機能を担い、地域医療を支えています。

これからも当院は、「政策医療」「高度先進医療」「地域医療支援」の三つを柱として、市民の皆さまに安全で質の高い医療を提供するとともに、より高度な医療の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

地域の皆さまに信頼され、必要とされる病院であり続けられるよう、職員一同力を合わせて努力してまいります。



新副院長ご挨拶



大阪市立総合医療センター副院長 兼 泌尿器科部長

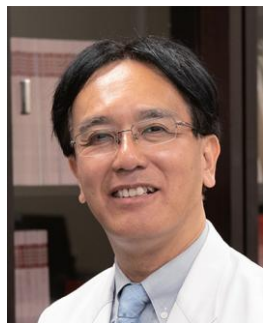
上川 禎則

2026年4月より副院長を務めております上川禎則です。泌尿器科医として30年以上、当院で地域の皆さまと向き合いながら診療を続けてまいりました。これまでの経験を生かし、副院長としてより良い医療体制づくりに取り組んでまいります。

当院は地域がん診療連携拠点病院として、幅広い疾患に対応できるよう診療体制の強化を進めてきました。スタッフも増え、より多くの患者さんを受け入れられるようになりましたが、その一方で組織の細分化、役割の分業が進み、地域の医療機関からのご紹介に迅速に応えられない場面も生じています。この課題を真摯に受け止め、診療体制の見直しと改善を進めてまいります。

また、災害や感染症、サイバー攻撃など、医療を取り巻くリスクは年々高まっています。どのような状況でも診療を継続できるよう、セキュリティ対策の強化は欠かせません。来年には電子カルテを更新し、医療の質と安全性の向上、業務効率化をさらに進めてまいります。これにより、救急医療や地域連携により多くの力を注げる体制を整えていきます。これからも地域の皆さまに安心して受診いただける病院であり続けるため、職員一同努力してまいります。

今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大阪市立総合医療センター副院長 兼 小児血液・腫瘍内科部長

藤崎 弘之

このたび、副院長に就任いたしました藤崎弘之と申します。1991年に大阪大学を卒業して以来、小児科医として子どもたちの診療に携わり、特に小児がんや白血病の治療・研究に取り組んでまいりました。2010年に当院へ着任し、現在は小児血液・腫瘍内科の部長として診療を行っています。

当院の小児医療は、旧大阪市立小児保健センターと母子センターを前身とし、総合病院の中に「小児病院」を備える、全国でも珍しい体制です。全体の1063床のうち約200床が小児病床で、内科系・外科系合わせて15の小児系診療科が連携し、幅広い小児疾患に対応して、質の高い専門治療を提供しています。

また、病状によっては、総合病院の強みを活かして、成人系診療科の協力を得たり、特殊な医療機器を利用したりすることができ、小児病院ではできない治療を行うことも可能です。療養環境についても最大限の配慮をし、年齢に応じた病棟、小児集中治療室、緩和ケア病棟、院内学級、心理・社会的支援など、多職種がチームとなり、子どもたちとご家族を支えています。

地域の皆さまに支えていただきながら、より良い小児医療を提供できるよう、これからも努力を続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新

診療科部長紹介



● 総合診療内科部長

山上 啓子

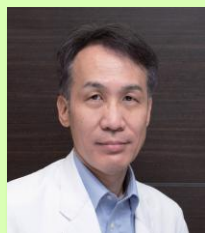
2026年4月より総合診療内科部長を務めております山上啓子です。これまで地域の皆さまの健康を支えるため、遺伝性血管性浮腫含め、幅広い病気の診療に携わってきました。当科では総合診療として疾患の鑑別診断から、リウマチ、膠原病疾患など専門性の高い疾患まで対応しています。また、急な病気で救急搬送が必要になった場合も、安心して診療を受けていただけるような役割を担っていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



● 糖尿病・内分泌内科部長

元山 宏華

2026年4月より糖尿病・内分泌内科部長を務めております元山宏華です。私たちの科では、診療科の特性上全身にわたる合併症への対応が求められ、多診療科および多職種と密に連携しながら診療を提供しております。また、近年注目されている肥満症の専門治療や内分泌疾患、骨代謝疾患にも対応し、安心してご相談できる体制を整えています。これからも地域の皆様の健康を支える診療科として努めてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。



● 消化器内科部長

榎本 大

2026年4月より大阪市立総合医療センター消化器内科部長を務めております榎本大です。これまで肝臓や胆のう、すい臓などの病気を中心に診療してきました。内視鏡を使った検査や治療、胃や腸のがん、炎症性腸疾患など幅広く対応し、治療が難しいケースにも力を尽くしています。これからも安全で質の高い医療で、地域の皆さまの健康を支えてまいります。



● 脳神経外科部長 兼 小児脳神経外科部長

石黒 友也

2026年4月より脳神経外科・小児脳神経外科部長を務めております石黒友也です。当科は、体への負担をできるだけ少なくする治療を大切に、難しい病気にも積極的に取り組んできました。これまで築かれてきた取り組みを大切にしながら、脳卒中など急な病気にも力を入れ、地域の皆さまに安心して相談いただける診療を目指しています。これからも安全で質の高い医療で、皆さまの健康を支えてまいります。



● 乳腺外科部長

池田 克実

令和8年4月より乳腺外科部長を務めております池田克実です。当院では18年間、乳がんの診療に携わり、2015年には多職種が連携するプレストセンターを立ち上げてきました。治療の選択肢が広がる一方で副作用への配慮も大切であり、私は漢方薬も取り入れながら患者さんを全人的に支える診療を心がけています。今後は科を超えて治療にお困りの方のサポートにも力を入れ、女性医師2名とともに「紹介して良かった」と思ってもらえる医療を目指してまいります。



● 新生児科部長

田中 裕子

2026年4月より新生児科部長を務めております田中裕子です。これまで28年間、新生児集中治療室（NICU）で赤ちゃんの診療に携わってきました。当院は大阪府から認可された総合周産期母子医療センターであり、新生児搬送の情報センターとしても重要な役割を担っています。産科をはじめ多くの診療科と連携し、さまざまな病気をもつ赤ちゃんの治療に対応できる体制を整えています。これからも地域の赤ちゃんをご家族を支えられるよう努めてまいります。



● 小児耳鼻いんこう科部長

鎌倉 武史

2026年4月より小児耳鼻いんこう科部長を務めております鎌倉武史です。2024年から当センターで勤務し、子どもの耳の病気や聴こえのケア、気道の診療を中心に取り組んでいます。当院は小児診療科が充実しており、成人の耳鼻咽喉科・頭頸部外科とも連携し、専門的な治療を行っています。耳の手術や補聴器・人工内耳の対応、睡眠時無呼吸の治療など幅広く診療しており、これからも安全で最適な医療をお届けできるよう努めてまいります。



● 中央放射線部長 兼 放射線診断科部長

大隈 智尚

2026年4月より中央放射線部長を務めております大隈智尚です。これまで放射線診断を中心に、正確で信頼できる画像診断の提供に努めてきました。当科では、迅速で質の高い読影を心がけるとともに、検査内容や結果についてのご相談にも丁寧に対応できる体制を整えています。地域の医療機関の先生方とも連携し、必要な検査を適切なタイミングで提供することで、地域医療に貢献していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



● 救命救急部長

石川 順一

2026年1月より救命救急部部長を務めております石川順一です。当院は小児救命救急センターを併設し、全年代の重症患者さんに迅速で的確な医療を提供できる体制づくりに取り組んでいます。三次救急としての役割に加え、地域の集中治療室としても柔軟に受け入れを行い、安心してご紹介いただける診療体制を目指しています。今後も地域の医療機関の先生方と連携し、より信頼される救急医療を提供できるよう努めてまいります。



● 集中治療部長

大塚 康義

2026年4月より集中治療部部長を務めております大塚康義です。当部では、成人から小児まで重症の患者さんを24時間体制で受け入れ、「どんな命もあきらめない」「患者さんを第一に考える」ことを大切に診療を行っています。地域の医療機関とも連携し、治療方針のご相談にも柔軟に対応しながら、地域全体の救急・集中治療の向上に貢献したいと考えています。今後も安心してご紹介いただける体制づくりに努めてまいります。

がん患者さんへ必要な支援を届けるために 支援の情報を集約した当院オリジナルの冊子を発行しています

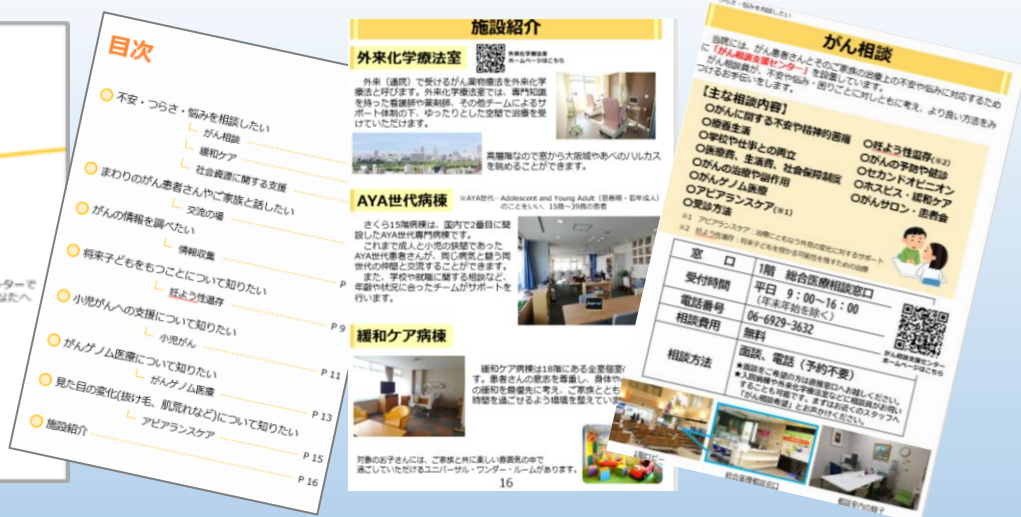


冊子

「大阪市立総合医療センターでがん治療を受けるあなたへ」

当院がん医療支援センター監修（当院ホームページ・がん医療）→

<https://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/about/cancer/>

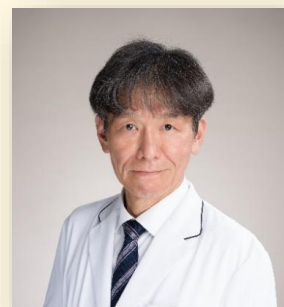


がん治療を受けられる皆様へ

今日、がんは誰もがかかる可能性のある病気ですが、がんと診断されますと、やはり不安になってしまふと思います。がんの治療で大事なことは、その不安を誰かに相談することだと思ひます。

がんに対する治療は日々進歩していますし、安心して治療を受けて頂けるように皆様をお支えする環境が整ってきています。医師は専門的な知識と経験をいかし、ありとあらゆる可能性を考えて治療します。治療の際には不安に思っていることを伝えてください。

また、病院には医師だけでなくいろいろな専門家がいます。皆様と我々が一緒になって、よりよい医療を考える時代です。誰にでも何でも相談してください。安心して治療を受けて頂けるよう、私たちは全力を尽くします。



大阪市立総合医療センター
病院長 清水 貞利

当院でがん治療を受けられる皆様へ

当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、がんに関する相談の窓口である「がん相談支援センター」が設置されています。当院で治療中の患者さんやご家族の方、その他の施設で治療中の方など、どなたでもご利用いただくことができ、診断や治療の状況にかかわらず、どんなタイミングでもがんに関するさまざまなことを相談することができます。がんの疑いがあると言われたとき、診断から治療、生活や療養、仕事やお金に関すること、気持ちのつらさなど、わからないことや不安を感じたときには一人で悩まず、お気軽に「がん相談支援センター」にご相談ください。専門の相談員が電話や対面相談により、情報提供や相談支援を行います。

当院では多くの専門職が患者さんをサポートする体制が整っています。この冊子を手に取ってくださり、当院で行っているさまざまなサポートが少しでも皆様のお役に立てることを願っております。



大阪市立総合医療センター
がん医療支援センター長
駄賀 晴子

がん医療支援センターは、
すべての年代のがん患者さんとそのご家族を支援します。





腎臓よもやま話

～腎不全と金魚の水槽～2



金魚を生かすには？

今回は、腎不全と金魚の水槽ということで、ヒトの体でも金魚の水槽でも、窒素化合物を処理することがとても大切であり、人体においてその働きを担う腎臓の重要性をあらためて気づかされたのでした。

さて、今回は、死んでしまった金魚たちをどのように飼育し始めていけば死なずにすんだのか、そのコツについて考えてみました。すると、驚くべきことに『腎不全』の患者さんに対して、すでに行われている治療法と、全くもって似ていることが判明しました。それらについてお話ししていきたいと思います。

コツ① 1週間はエサをあげない

金魚にとって毒になる窒素化合物（アンモニア）は、エサの中のタンパク質から作られます。だから、たくさんエサを与えると、たくさんアンモニア（毒）が発生します。そして、この毒を分解するバクテリアが当初は少ないために、毒がどんどんたまってしまい金魚を死に追いやります。このため、飼育し始めの1週間はエサを与えないようにする必要があります。

このことは、ヒトの『腎不全』に対する食事療法：タンパク制限と類似しています。腎臓が弱っているときにタンパク質をたくさん取ると、窒素化合物が排泄しきれずにどんどん貯まってしまいます。これによって尿毒症が進行し、末期腎不全に陥り易くなるのです。だから、食事療法：タンパク制限は『腎不全』の治療としてとても大切なことです。

さて、金魚の話に戻りますが、エサのやりすぎは、金魚にとって他の意味でも危険なことです。というのも、金魚には、目の前に来たエサは満腹であろうがどんどん食べてしまうという習性があります。さらに、金魚には胃が無く、食べた物が直接腸に入るため、エサをやりすぎると腸にエサがどんどんたまり、腸閉塞になって死んでしまうのです。エサのやりすぎには注意しましょう。

コツ② 活性炭やバクテリア、水草などを水槽に入れる

とにかく発生して貯まった窒素化合物を吸着したり、吸収したりしてやろうというものです。特に活性炭は強力に窒素化合物を吸着するらしく、よい方法のようです。私の購入した濾過フィルターの中にも、少量の活性炭は入っていました。しかし、効果があまりなかったのは、その量が少なかったからでしょう。

この活性炭は、『腎不全』の治療薬としても使われています。インダキシル硫酸などの窒素化合物を腸管で吸着して、便と一緒に排泄するというものです。便秘になりやすく、また、服用時に口の中がジャリジャリしてしまうために飲みにくい薬剤ですが、できれば内服したいです。

バクテリアのもと、水槽により早くバクテリアが繁殖してくれるのを助けてくれるので、手に入れば必ず入れたいところです。水草は成長に窒素化合物を必要としますので、幾分かは吸収してくれるとは思いますが、即効性はないでしょう。実際、近所で大量に採ってきたアナカリスを入れていましたが、初めの数週間に関して効果はありませんでした。

コツ③ 適度に水替えをする

貯まった窒素化合物を水ごと除去してやろうというものです。これが最も効果的な方法です。ただし、水槽内の水を一気に変えてしまうと、金魚にとって環境の変化が激しすぎて、体調不良や死亡の原因になります。また、アンモニアなどの窒素化合物を分解してくれるバクテリアも一緒に捨てることになります。このため、水槽の1/3程度の量の水を、3日に1回程度の頻度で変えてやる必要があります。

これは、『腎不全』にとっての、透析（血液透析・腹膜透析）療法にあたります。末期腎不全に陥ってしまい、自前の腎臓で窒素化合物を体外に排泄できなくなった場合は、透析によって水と一緒に体内から抜き取ってしまうか、腎臓移植しかありません。これらの方法が無かった1960年以前は、末期腎不全に陥った人は皆、尿毒症で亡くなっておられたのです。このため、血液透析の場合は、標準で週に3回、1回3～4時間の透析を、腹膜透析の場合は1日4回ほど透析液の交換をする必要があります。これらには、日常生活多くの時間をかけることになり、腎不全の患者さんにとってかなりの負担になるのですが、生命維持のために不可欠です。

さいごに

以上、金魚の水槽とヒトの体において、窒素化合物を処理する方法についてみてきました。結構共通する点が多く、興味深いなあと思うと同時に、結局、物理的に窒素化合物を除去してやる水替えと透析療法が最も効果的な方法であることに変わりはないと思われるのでした。

なお、このたびは、金魚すくいでゲットした金魚を突然飼育することになった場合の方法を記載しました。一般家庭で金魚を飼い始めるのは、このようなケースが多いかと思われ、これまでのお話をご参考の上、飼育にチャレンジして下さい。ただし、金魚を飼い始める際に最もよいのは、あらかじめ水槽を用意して、活性炭やバクテリアの元等も前もっていれておいて、水槽の環境を十分に整えた上で、飼育し始めることなので、できればそちらをお勧めします。



連携登録医のご紹介

かかりつけ医とは、病気になったときなどにすぐに相談できる地域にある医院やクリニック、診療所などのお医者さんです。日常的に相談でき、緊急の場合にも対処してくれるかかりつけ医をもちましょう。



日常の診療・健康管理は
かかりつけ医で

専門的な検査・
治療は当院で

病状が安定したら
再びかかりつけ医で

大阪京橋イノルト整形外科 痛みと骨粗鬆症クリニック

院長 加藤 怜

診療科 整形外科・骨粗鬆症内科・リハビリテーション科

住所 都島区東野田町1-6-22 kiki京橋2階

電話 06-6357-6355

外来	月	火	水	木	金	土	日
午前 (9:00~12:00)	○	○	○	○	○	○	○
午後 (13:30~17:00)	○	○	○	○	○	○	○

★休診：第3木曜の午後、祝日、年末年始

院長あいさつ



加藤院長



当クリニックでは整形外科専門医がしっかり患者様と寄り添い治療していくだけでなく、結果に伴う医療を提供し、質の高い治療を提供しています。首・肩・腰・膝などの痛みや関節の痛み、骨折予防の骨粗鬆症予防に関することまでお悩みがありましたら、痛みを我慢せずご相談ください。スポーツ整形外来やひび再生治療もおこなっています。

にしたに腎・泌尿器クリニック

院長 西谷 嘉夫

診療科 腎臓内科・泌尿器科・人工透析

住所 城東区今福西1丁目3-3橋本ビル3階

電話 06-6936-7100

外来	月	火	水	木	金	土
午前 (10:00~12:00)	○	○	○	○	○	○
午後 (16:30~18:30)	○	×	○	×	○	×

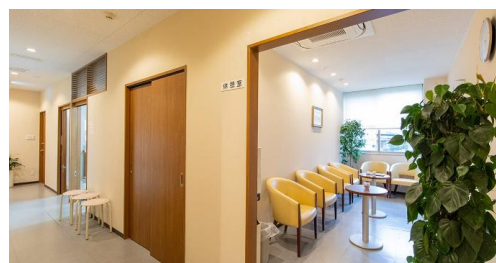
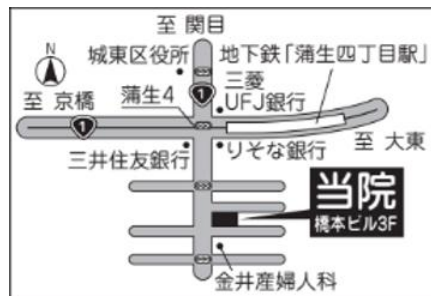
★休診：火曜午後、木曜午後、土曜午後、日曜・祝日

※透析診療時間は別途ホームページを参照ください。

院長あいさつ



西谷院長



当院は膀胱炎、前立腺疾患などの泌尿器科の疾患をはじめ、人工透析や腎不全治療など、腎臓病の診療全般を行う腎・泌尿器科クリニックとして平成17年に開業しました。「より元気に、より長生きしていただくこと」をモットーにスタッフ一同、医療に専念し、透析の確認・健康管理を行うことで合併症や疾患の早期発見や早期治療に努めています。泌尿器科関連では軽い症状でも重大な疾患が潜んでいることがあります。気になることがあればまずは受診にいらしてください。

読者アンケートのお願い



今後のよりよい広報誌づくりのため、次のアンケートフォームより皆さまのご意見をお聞かせください。

<https://forms.gle/ScgTic45mKmGAXfEA>

患者さんの権利

1. 個人の尊厳を重視した安全で良質な医療を平等に受ける権利があります。
 2. 自分の医療に関する情報を理解できる言葉や方法で十分に提供された後、意見を述べるなど治療計画に参加し、自分の意思に基づいて医療行為を選択する権利があります。
 3. 自分の受ける医療について、知る権利ならびに診療情報の開示を求める権利があります。
 4. 診療に関する個人情報、診療目的以外に使用されないよう厳密に保護されます。
 5. プライバシーに配慮した医療の提供を受ける権利があります。
- 自分の病気に関する説明、診断などを他の医療機関からも受ける権利があります。

